

## 私たちと公共政策

徳島大学総合科学部 准教授  
小田切康彦(公共政策学)

従来、公共の主たる担い手は政府であった。しかし、近年、市民や企業などの社会を構成するすべての主体が公共の担い手として位置づけられるようになってきている。とくに、私たち市民には、公共サービスの受け手としての役割のみならず、その担い手としての役割が期待されている。すなわち、私たちひとりひとりが、多様化する地域社会の問題解決にいかに関わっていくのか、が問われているのである。本セミナーでは、私たち市民が地域の課題解決やまちづくりにおいて果たす役割について議論する。

具体的には、イギリスにおける市民主体の地域再生の先進例を検討する。イギリスでは、ディベロップメント・トラスト(Development Trust; 以下 DT)と呼ばれる非営利組織が活躍している。DTは、①特定の地域やコミュニティにおいて、社会、経済、環境の側面から主体的にコミュニティ再生に取り組む、②独立組織であり、私利私欲を目的としない自立的運営を目標とする、③コミュニティを基盤とし、住民が運営・マネジメントを行う、④コミュニティ・セクター、ボランティア・セクター、民間セクター、政府セクターと積極的にパートナーシップを結ぶ、といった定義がなされている。DTの活動は、都市部、郊外の住宅地、沿岸都市、中山間地域などあらゆる範囲に広がっており、また、その内容も、教育活動、若年者対策、住宅賃貸運営、スポーツ施設運営、育児活動など多岐に渡っている。すなわち、DTは、地域の多様な課題に市民が主体となって取り組む組織なのである。地域の人々が自ら運営に参加し、私利私欲を追求せず、課題解決に努めるその姿は、イギリスの地域再生へ向けた大きな力となっている。

本セミナーでは、2つのDTの事例を取り上げる。1つは、Westway Trust(以下 WT)である。WTは、1971年に設立されたイギリス内でも草分け的なDTである。ロンドン西部のノースケンジントン地域を通過する高速道路の高架下スペースを、自治体から120年という長期間のリースによって借り受け、そこを開発・管理している団体である(図1)。この高速道路の高架下スペースは、スポーツ・レクリエーション施設運営、民間企業等へのテナント・スペースの提供、コミュニティ施設の建設・運営などに活用されている。高架下の公共スペースの活用を通じて、地域の諸問題の解決に寄与しているのである。

もう1つは、Caterham Barracks Community Trust(以下 CBCT)である。CBCTは、イングランド南東部のタンドリッジで活動を行う組織である。特徴は、廃棄さ

れた兵舎を改築しながら、住民のためのまちづくりを展開している点である。この地域は、1875年に陸軍の土地として兵舎(バラック)が建設されて以来、軍隊の街として繁栄してきた。しかしながら、軍縮の影響から、1990年に兵舎等の施設の閉鎖・廃棄が政策的に決定され、失業率が急上昇するなど、住民生活に多大な被害を及ぼした。CBCTは、こうしたまちの再生のため、市民自身によるまちづくりを理念として掲げ、残された土地や兵舎の開発・運用を行っている。



図1 高速道路高架下のコミュニティ施設(WT)

DTの事例は、市民主体の地域再生におけるひとつの「解」を示している。当日は、DT設立の経緯、組織体制や活動内容、DTを支援する法制度等を取り上げつつ、日本を想定した場合にどのような示唆が得られるのか、考察を行う。

\*\*\*\*\*

### 総合科学部公開セミナー

第2回: 2月17日(金) 18:30~20:00

対象: 一般・大学生・高校生 参加費無料

会場: 総合科学部1号館南棟3階 301 講義室

事前申込が必要。駐車場の利用可。

詳細: 総合科学部 HP

<http://www.tokushima-u.ac.jp/ias/>

申込み・問い合わせ先:

徳島大学総合科学部事務課総務係

TEL: 088-656-9779

E-mail: [sksoumks@tokushima-u.ac.jp](mailto:sksoumks@tokushima-u.ac.jp)